



明治150年推進事業

# 十五代 辻常陸展

禁裏御用窯元

宮内庁御用達

## 澄み渡る染付 悠久の美の世界

明治150年となる平成30年。文化人を中心に明治以降の歩みを次世代に遺す活動が行われている中で、近代陶芸において重要な位置づけとされる「辻常陸」が注目されています。江戸時代から禁裏御用窯元として仕え、激動の明治から昭和の時代の流れとともに受け継がれた悠久の染付け美。時代の名品を振り返りながら、十五代 辻常陸の新作までをご紹介します。

会場 ■ 川徳 7階催事場

会期 ■ 平成30年5月24日(木)～29日(火)

最終日 午後5時閉場

※トークショー ■ 5月26日(土)・5月27日(日) 午後2時～



染錦 鶴亀文龍型水注  
江戸時代後期御所への献上品

瑞雲鳳凰  
大花瓶

**KAWA  
TO  
KU**  
川徳 盛岡市菜園1丁目10番1号  
電話(019)651-1111(代表)

【主催】 岩手日报社

【後援】 岩手県・盛岡市・IBC岩手放送  
テレビ岩手・めんこいテレビ  
岩手朝日テレビ・エフエム岩手  
NHK 盛岡放送局・岩手ケーブルテレビジョン





菊花鳳凰文染付皿

明治初期に皇室の御料器として納められた染付皿です。皇室の御紋章と皇室の象徴、鳳凰の文様が同時に描かれた辻家の貴重な献上品で、当時、御用坑と呼ばれた泉山最良の磁土を使い驚異的な工程を通過した製品だけが皇室御用器として献上された。その作品の中に数多の技法を見事に結集された十一代辻勝蔵の俊秀さを伺わせる逸品です。

## 皇室が愛した有田 謹製の器

明治初期から中期にかけ、国資や外国の外交官を接待するため建てられた「鹿鳴館」では、辻勝蔵をリーダーとする精磁会社の洋食器が数多く使用されました。江戸中期より連続と受け継がれた確かな技術と品格ある藍の美は、今もなお皇室に愛され続けています。



リスブドウモカセット



花瓶 四君子

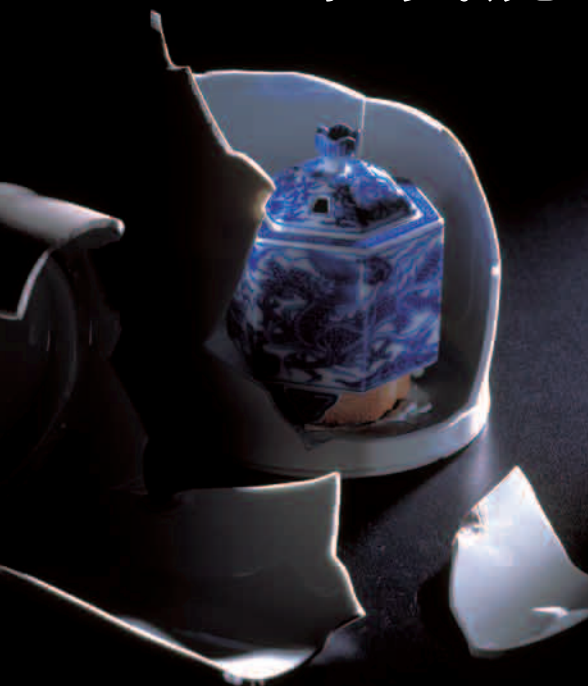


## 明治天皇陛下 有田行幸に際し献上

蓮池水禽文 大鉢鉢

辻家に伝来する飾り鉢の図案をもとに復元した逸品です。雲龍と鳳凰を浮彫りし、画面は龍の前身の鯉、鳳凰の前身として水禽を配しています。余白は花唐草で埋め尽くし、花卉を模して作られた器体に優雅に絡みついており、終わりになき栄華を表現しています。染付の青と浮彫りの白のコントラストも美しく、数ある辻家の作品の中でも大作の一つです。

## 辻家秘伝 極真焼



## 十五代 辻常陸 昭和14年8月6日生

昭和14年 14代 辻常陸の長男として生れる

昭和33年 佐賀県立窯業試験場にて第一期研修生として研修  
襲名までの間、様々な展覧会に出品、受賞歴有り

十四代に師事し共に宮中の美術工芸品の制作に関わる  
宮殿・御所の春飾り盆器制作／菊花御紋章入肩皿制作  
菊花御紋章入金盃制作

平成20年 十五代辻常陸を襲名  
全国で襲名記念展を開催

1811年、九代 辻常陸(喜平次)により発明された辻家独自の焼成製法です。製品と同質の磁土で匣鉢(さや)を作り、蓋との接触部分と内部全面に釉薬を十分に施して焼成することで匣鉢内を真空状態とします。その結果、内外のガスの浸透・拡散を完全に遮断することで気品あふれる肌の光沢と深い呉須の発色の製品が得られます。しかしながら焼成後、鉄槌で匣鉢を粉砕して製品を取り出すという多くの手間の割には一回限りの製法でもあります。



極真焼 香炉 菊



極真焼 香合 菊





明治150年推進事業

元 燻用御裏禁  
達 用御内宮

# 十五代辻常陸展 記念企画



平成から新時代へ継承の慶びの小箱

## 「ボンボニエール 榮の戌」



桐は今上天皇のお印の花であり、岩手の県花。戌は新しい命を育む象徴。  
慶びの小箱・ボンボニエールを記念作品として制作いたします。  
皇室御用達の京都の老舗「緑寿庵・清水」の金平糖をセットした限定作品です。

270,000円(税込)

本体価格 250,000円

桐箱入り・ふくさ・金平糖のセット価格です

限定数:10個

サイズ:高さ110×横130×奥70mm

会場 ■ 川徳 7階催事場

会期 ■ 平成30年5月24日(木)～29日(火) 最終日 午後5時閉場

※トークショー ■ 5月26日(土)・5月27日(日) 午後2時～

【主催】岩手日報社 【後援】岩手県・盛岡市・IBC岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ  
エフエム岩手・NHK盛岡放送局・岩手ケーブルテレビジョン



盛岡市菜園1丁目10番1号  
電話(019)651-1111(代表)